

日本ミツバチと棚田

太古の昔より、神々の居します大倭豊秋津島、大八島国にはいたる所に日本ミツバチが飛び交っていた。森があり、郷や里があり、花が咲いて実がなりいろいろの動物や生き物、そうして人もそれを食し、また風や鳥に運ばれ新たな土地で芽生えて広がっていった。変わらざる自然の営みは営々と続けられています。

「いこま棚田クラブ」も 11 年目に入り、活動のキーワードにこの日本ミツバチを加えませんか。そのキーとなる言葉とは、森 郷 里人 (西畑住民) クラブ 景観保全 協働作業 菜の花や蓮華草 日本ミツバチ そうしてちょっぴりの趣味 (農産物やお花など) の部分。

ミツバチを巡る法律の世界で、今年 1 月 1 日から「養蜂振興法」が改正され、「蜜蜂の飼育をおこなう者」は全て届け出を義務化された。明治時代に我が国に導入された西洋ミツバチは、その生産性の良さからあつという間に広く飼育されるようになったが、一方日本ミツバチは大昔から生息し、自然の一部であり環境そのものの一部でさえあった。いふなれば野生種のミツバチである。西洋ミツバチを趣味で飼育する人はいないと思われるが、日本ミツバチも然りと法規制の網にかかったのである。さらに第 8 条では「蜂群の配置を適正にする」というくだりである。日本ミツバチは野生種なので、西洋ミツバチが密源にやって来て密源に不足をきたしたら、別のお花を探して移動するであろうし、第一人間がその配置を決めることなど不可能であるのに。ミツバチの生み出す経済効果は果樹生産では蜂蜜の 50 倍とも 100 倍ともいわれ、花粉媒介の働きは自然界の樹木や露地の野菜などに、日本ミツバチが担ってきたのである。

蜂群崩壊症候群とし世界各国で問題となっているこの難解な病気はどうも農薬がその犯人ではと報じられているが、第 5 条では「・・・衛生的な飼育管理をおこなう等・・・」と記され、現実にはダニ対策での薬剤使用や餌への抗生物質を入れたりなど。幸いに日本ミツバチは病気にも強く、薬剤の必要性は殆んどない。桜花爛漫、花々満開、この西畑の里に日本ミツバチのお宿を作ってあげて、お家賃として幾ばくかの美味しい百花蜜の蜂蜜をいただきましょう。

*****日本ミツバチと西洋ミツバチの相違点*****

◇養蜂対象

西洋ミツバチ 1 種類 東洋ミツバチ 8 種類

◇進化度

東洋ミツバチは極限まで進化した昆虫である。

◇知能

1 ; 日本ミツバチ 2 ; オオスズメバチ 3 ; コガタスズメバチ

◇食物連鎖

オオスズメバチが頂点で、これがなくなるとバランスが崩れ他の昆虫が大繁殖する。

◇飼育方法

西洋ミツバチは明治時代半ば導入され、生産される蜜の経済性から急速に普及し、人の手を介さないで生きていけない。一方日本ミツバチは、古代より日本の風土の中にいた自然そのものである。

項目	日本ミツバチ	西洋ミツバチ
縞模様	幅黒く均等	腹部でオレンジ色先黒い
形態	小羽さき H字型	小羽さき Y字型
止まり方	上向き	下向き
越冬	黒くなる	黒くなる
設置個所	日陰	陽だまり
逃亡	する 森の自由人?	しない 死するのみ 乾燥草原人?
シグァリング	する (危険感知と伝達能力)	しない
寒さ	寒冷に適応している	弱い
湿度	順応している	弱い
行動半径	2 km	4 km
ダニ	やられない 毛づくろいする	やられる
CCD	やられにくい	やられる
採蜜	年 1 回	年 3~4 回